

## 環境ビジョン 1

### 多様な生態系と共生するまち

わたしたちは、その地域の風土や心身ともに健康的な暮らしを営むために恩恵を与えてくれる多様な自然生態系の一員として存在しています。しかし、わたしたち人間の身勝手な自然破壊による影響は、今や地球上のあらゆる生物多様性だけにとどまらず、生命の危機というところにまで議論が及ぶようになりました。

多様な生態系を育み、二酸化炭素の吸収や水源涵養などの公益的機能としてだけでなく、地域の文化や風土、産業発展の基礎として、あらゆる生命の源である自然環境を保護し、維持・保全しなければならないという意識は世界中で高まり、具体的な活動や研究、開発等が進められています。

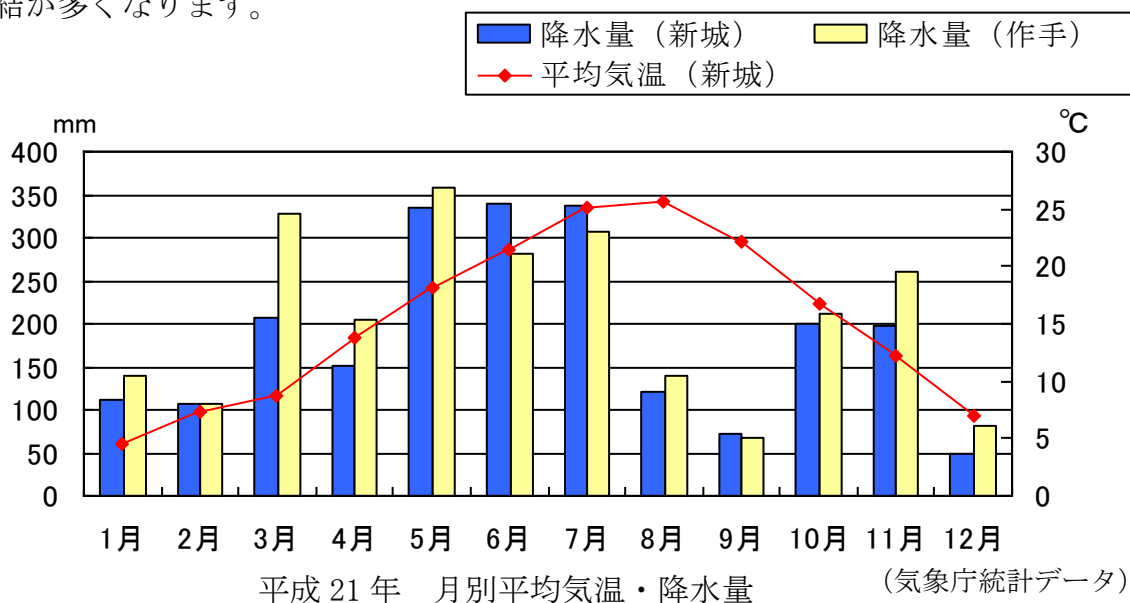
本市には、幸いにもまだ、多種多様な野生生物が生息する豊かな自然環境が市全域にわたり存在しています。

わたしたちは、自然環境を大切にすることを育み、多様な生態系を維持・保全しながらも、地域資源を有効に活用する『多様な生態系と共生するまち』を創造し、将来世代に引き継いでいきます。

## 【自然環境の把握】

### 1 気候

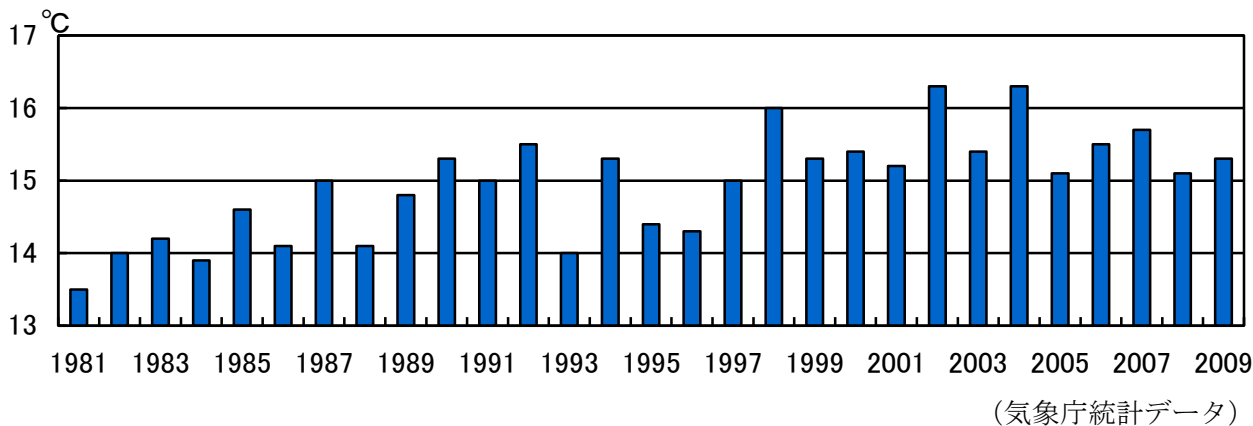
本市は、新城・鳳来地区と作手地区との市域高低差が約500mあります。豊川沿いに位置する新城・鳳来地区の年平均気温は約15℃と比較的暖かな地域ですが、作手地区になると約12℃となり、市域内で2～3℃の気温差になります。また、総雨量も気温と同様に市域に差があります。降雪は、豊川沿いに位置する地域では毎年12月から3月までに数回記録されますが、積雪はほとんどありません。作手地区になると、冬場は積雪や道路の凍結が多くなります。



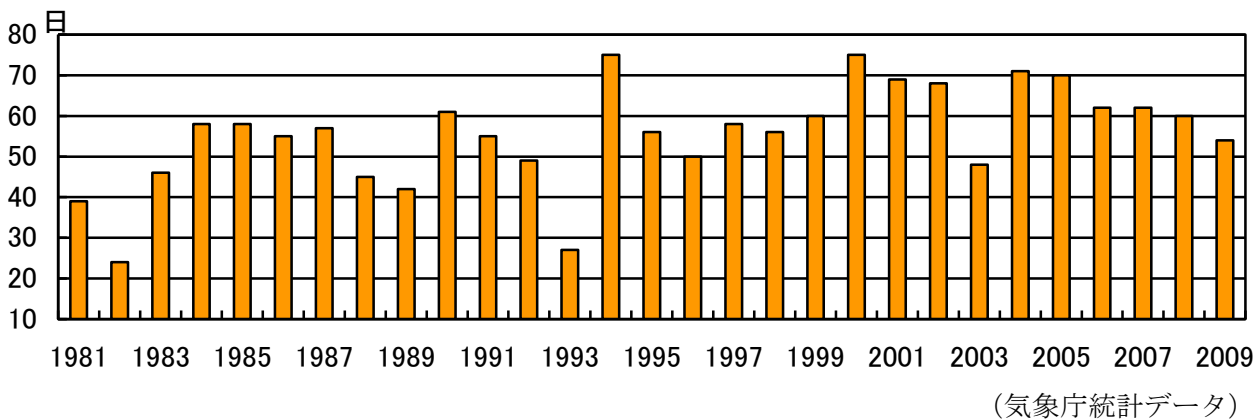
1981年から2009年までの29年間のデータを比較すると、年平均気温は上がったり下がったりをくり返しながらも徐々に気温が上昇傾向にあるのがわかります。特に1997年以降、年平均気温が15℃を下回ることはありません。

また、最高気温30℃以上の「真夏日」日数、最低気温0℃未満の日数においては、直近の10年間と1981～1990年の10年間とを比較してみても、温暖化傾向にあることがわかります。

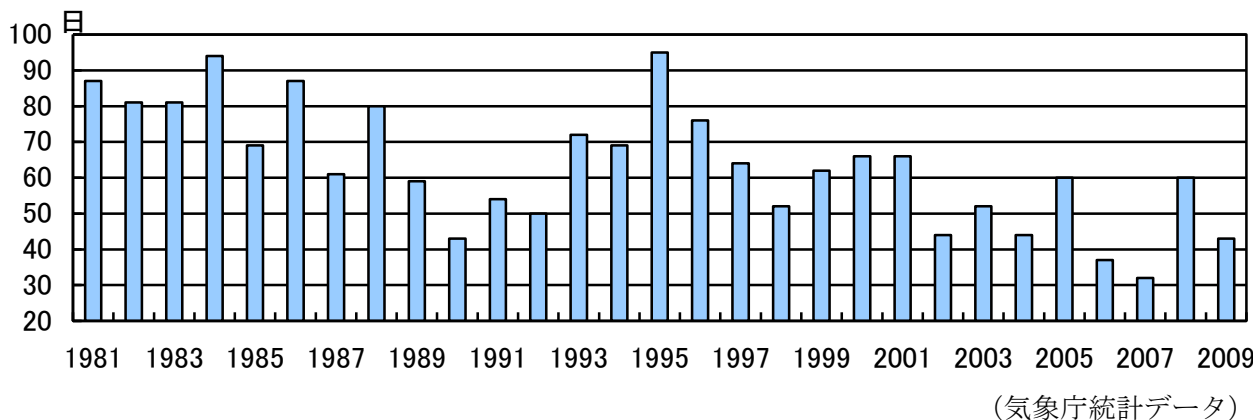
### 【年平均気温の推移】



### 【最高気温30℃以上の日数】



### 【最低気温0℃未満の日数】



※観測点は、2002年以前は旧鳳来町長篠地内にありました。現在は、新城市富沢地内に移設されています。

## 2 地形・地質

段戸高原を源とする豊川（寒狭川）と宇連ダムを起点とする宇連川が鳳来寺山の東西を挟むように流れています。

この2河川が、長篠の戦いの中心となった長篠城址の下で合流し、豊川本流となり三河湾へと注がれます。

この豊川に沿って日本最長の断層帯「中央構造線」が縦走り、地形と地質を豊川本流右岸の内帯と左岸の外帯に分けています。内帯側の地質は、花崗岩類・領家変成岩類と堆積岩、火山岩類が分布しています。

外帯の地質は、主に緑色片岩や黒色片岩からなる三波川帯で構成されています。これらは、平坦地が洪積層・沖積層となっています。



作手地区 長ノ山湿原

作手地区は床土が水をにがさない粘土であること、平らな地形で湧き水があり、夏の気温が低く雨の多い気候であることなどの条件から6か所の湿原が点在しています。作手の湿原は、愛知県で唯一、土の酸素が少なく酸性が強いため植物が腐らずに炭のようになるでい炭のある湿原であることから「日本の重要湿地500」に選定されています。

## 3 植生

本市の行政面積は、83.5%が森林で、尾根沿いを中心に在来の常緑広葉樹林が点在しているものの、森林面積の80%以上はスギやヒノキの人工林となっています。

新城・鳳来地域は、暖地系の植物の多い地域で、特に鳳来寺山は、ホソバシャクナゲの自生地として全国的にも有名です。また、ツガ群落の他、亜高木のヤブツバキ、アラカシ、ツクバネガシや低木層のアオキなどが常緑広葉樹林の群落をつくり、シダ植物以上の高等植物が800余种確認されています。天然のよい植物見本園として、国の名勝および天然記念物に指定されています。

豊川沿いにおいても、比較的自然植生が多く種類も豊富です。特に桜淵公園の蜂の巣岩付近は、石灰岩を含む地質で構成されており、クモノスシダ、ツルデンダなど石灰岩特有の植物が見られます。

作手湿原には、全国的に見ても絶滅の危険性のあるサギソウ、トキソウ、サワラン、ヤチスギランや県内でもこの地域でしか見られないサギスゲ、ミタケスゲ、ヌマクロボスゲ、ツルカミカワスゲ、ミヤマナルコスゲなどの貴重なものがみられます。

#### 4 動物

本市は、豊川・矢作川にそそぐ支流小河川とその周辺の農地および外縁部の山地などほぼ市域全体が豊かな自然環境に恵まれており、多くの動物が生息しています。

種 類	解 説
哺乳類	雁峰山から本宮山にかけての北部山地と東部および南部の山地を中心にニホンザルをはじめイノシシ、タヌキ、ニホンリス、ノウサギなどの生息が見られる。また、本宮山を中心とする地域にホンシュウシカ（ニホンジカ）の生息地、山地と一部の社寺林にはムササビの生息が確認されている。
鳥類	豊川やそれにそそぐ小河川を中心に市域外縁部の山地まで全域にわたり多くの野鳥が生息している。豊川には、オシドリや「水辺の宝石」ともいわれるカワセミが生息しており、桜淵公園だけでも年間を通して約80種の野鳥が確認されている。また、鳳来寺山や作手地区の山々には「仏法僧」と聞こえる鳴き声で有名なコノハズクの生息が確認されている。
魚類	天然記念物ネコギギをはじめ、ウナギ、アユ、オイカワ、ウグイ、コイ、ホトケドジョウ、メダカなどの生息が確認されている。しかし、市内の沼や池には外来種ブラックバスやブルーギルなどが繁殖していることから在来種の生息が危ぶまれている。
昆虫類	本市の様々な植生により多くの種類が確認されている。1983年（昭和58年）3月に市の天然記念物に指定されているヒメハルゼミをはじめ多くのセミ類やトンボ類、チョウ類、カブトムシ、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタなどの甲虫類やタガメ、ヒメボタルなど生息するとされている。しかし、スギやヒノキの植林地が広がり、シイ・カシ林に生息するとされるヒメハルゼミの確認が難しくなっているとともに、その他の昆虫類も開発や農薬などの影響を受け確認事例が減少傾向にある。また、外来種による日本固有の生態系への影響が懸念されている。
爬虫類	シマヘビ、ジムグリ、タカチホヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシ、マムシなどのヘビ類やニホンイシガメ、ニホンカナヘビ、ニホントカゲが確認されている。最近では、ペットとして飼われていた外来種が巨大化などにより自然に放たれることにより、在来種の生態系への影響だけでなく、人への危害も懸念されている。
両生類	山地の樹上で昆虫やクモ類などを食べ、単独で生活する日本固有のモリアオガエル、ヒキガエル、アマガエル、トノサマガエルなどのカエル類やイモリが確認されている。モリアオガエルは、県内でも特にこの地域での生息が確認できる。



## 1 保全と創出

### ●豊かな自然の保全

【生命の源としての自然の確保】、【生物生息空間の保全・維持】

### ●身近な自然の創出

【原風景の回復】

《四谷の千枚田の特徴》

千枚田のある四谷地区は鞍掛山（標高883メートル）の南西斜面に広がる山間集落で、石積みの棚田は、標高220メートル付近から鞍掛山頂に向かって標高430メートル付近まで広がっており、その標高差は約210メートルにもなります。また、棚田は、鞍掛山を水源に持ち、四谷の千枚田を囲むように山あい大代、大林、身平橋、田の口の4集落で構成されています。

鞍掛山の中腹からこんこんと湧き出てくる水は、毎秒20リットルで<sup>か</sup>潤れることも無く、昔から大雨が降っても濁らず、生活排水の混入もなく、石積み水路と透有感のある清水が三筋の沢として流れ、棚田を潤しています。

傾斜地山林を苦勞して開墾し、構築された石積みは、鞍掛山の転石や山崩れで流出してきた石だけを積んだ棚田であり、また石積みの土地に家屋も建築しており、独特の石垣風景を呈しています。これらの自然石による石積み棚田、鞍掛山、豊富な水が正面から一望できる素晴らしい光景は訪れる人の心を和ませています。



《千枚田の魅力・能力》

山の傾斜地に作られた千枚田は、そのあぜや石垣によって大雨の際の土壌浸食を防ぎ、またその保水機能によって調整池の役割を果たし、水が一気に流水するのを抑える災害防止機能を備えています。

山の斜面や丘陵地に段々と折り重なり、その曲線美を見せる四季折々の棚田の風景の美しさは、はるか太古の昔から日本の原風景として日本人の心に潤いとやすらぎを与えて来ました。

「四谷の千枚田」は大雨でも濁らない湧き水を持ち、おいしい米（棚田米）を生み、四季折々に多彩な表情を見せてくれて奥深い魅力を秘めています。常に水をたたえて豊かな緑を育む田は、様々な動植物にも生息空間を提供しています。「四谷の千枚田」ではモリアオガエルの卵も見られます。

《鞍掛山麓千枚田保存会》

千枚田の保存活動を通じて、農業労働力の確保と農業振興および地域の活性化を図るため組織されたグループです。活動内容としては耕作放棄地の解消に取り組むとともに「田植え体験」「稲刈り体験」「生き物観察会」など都市と農村の交流も図っています。この他にも水路、里山の環境整備を行い、美化活動にも取り組んでいます。

◇鞍掛山麓千枚田保存会(平成21年度活動実績)

実施日	活動内容
4月7日(火)	横浜ゴム新入社員研修 新規採用社員38人 (ふれあい広場環境整備及び千枚田概要説明) 協力:連谷お助け隊
5月9日(土)	田植え(JA愛知東こども農学校) 役員会
5月22日(金)	田植え(連谷小学校)
5月23日(土)	総会 於:連谷会館 県環境部長来訪
5月31日(日)	草刈作業 保存会と連谷お助け隊
6月6日(土)	第4回お田植え感謝祭「みんなで灯そう千枚田」の協力 1,500本のロウソクと「かがり火」が早苗の田んぼに映え、幻想的な世界と感動を与えた。 主催:連谷お助け隊
9月3日(木)	神奈川県相模女子大学短期大学部社会マネジメント学科教授とゼミ生10人が来訪、四谷千枚田を歩く
9月4日(金)	副知事来訪
9月6日(日)	保存会、連谷お助け隊合同の景観、環境整備活動
9月10日(木)	昭和女子大教授とゼミ生9人来訪
10月9日(金)	アストラゼネカ社社会貢献活動受け入れ(AZ社員118名) 棚田の環境整備、高齢者等の支援活動
10月16日~17日	第15回全国棚田(千枚田)サミット参加(27人) 於:新潟県十日町市
11月18日(水)	三重県熊野市紀和町の丸山千枚田から10人が来訪 棚田保全の取組に係わる情報収集及び意見交換
12月5日(土)	豊田市桑原町の桑原地区から来訪
2月26日(金)	大阪府農林行政職員来訪



横浜ゴム新入社員研修



アストラゼネカ社社会貢献活動

<あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業>

鞍掛山麓千枚田保存会は愛知県が導入した「あいち森と緑づくり税」を財源としたあいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業の企画提案に応募、採択され、四谷の千枚田周辺の景観、環境整備、ゆとりのある地域づくり等に地域の自主性や想像力を活かした活動を「連谷お助け隊」と実施しました。

実施期間 平成21年8月～平成22年2月

実施場所 新城市四谷(千枚田周辺)

事業概要及び実施項目

○里地里山環境に配慮した千枚田周辺の環境整備(周辺の草刈り、県道、市道、作業道、私有地等の障害木の除伐など)の実施

○里地里山生態系をテーマにした自然観察会等の開催

実施項目	実施日	活動内容
環境整備活動	9月6日(日)	千枚田周辺の環境整備活動
	10月9日(金)	外資系製薬会社アストラゼネカ社員による台風18号復旧活動
生活道環境整備	11月8日(日)	松下地区を主体に連谷校区の障害木や倒木の徐伐、日溜まり確保、冬季凍結によるスリップ事故多発場所の除伐整備
作業道の補修	2月7日(日)	千枚田入り口付近と古宿からの作業道(景観道)の陥没箇所の補修作業
	2月14日(日)	

<田園自然再生活動コンクール 農林水産大臣賞受賞>


農林水産省が環境省と連携して、農村地域において、農業者、地域住民、NPO法人などが協力して、農業生産との調和を図りながら取り組んでいる自然環境の保全・再生活動(田園自然再生活動)の中から優良団体を表彰する「田園自然再生活動コンクール」に募集し、全国31道府県、71団体の中から、総合的に優れた取組として、農林水産大臣賞を受賞しました。

棚田全体をビオトープとして、地域に生息するモリアオガエルなどの希少種をはじめとした豊かな自然環境の保全・再生活動に取り組み、農作業体験や自然観察会等を通じて都市との交流や企業との連携を図り、棚田のすばらしさを多方面に発信しています。棚田保全活動を発展させ、自然環境を活かした都市・企業との連携交流を図るなど活動内容の幅・質が、総合的に優れている点が評価されました。



◇豊橋調理製菓専門学校千枚田活動事業（育農授業）

実施日	活動内容
5月14日(木)	田植え体験
6月18日(木)	稲の生息調査、環境調査、田の草取り
9月10日(木)	稲の生息調査、稲刈り、ハザ干し 学生と先生計31人参加
9月30日(水)	感謝祭



◇三河の山里ツーリズム事業の受け入れ 主催：愛知県企画部地域振興課

実施日	活動内容
5月16日(土)	田植え
6月20日(土)	田の草取りと梅取り
9月12日(土)	稲刈り、ハザ架け15人参加

《地域の活動》


「田吾作」

耕作者の高齢化などにより棚田の耕作ができなくなった農地を借りて、減農薬、有機栽培での耕作に極力努め、耕作放棄地の解消を図っています。ここで収穫したもち米を活用して都市住民を交え、棚田で昔ながらの杵と石臼で餅つき大会を行うなど都市と農村の交流も行っています。

「連谷お助け隊」

地区内の若者有志23名が中心となり、平成17年に開催された「全国棚田（千枚田）サミット」の支援組織として発足し、その後、千枚田保存会、田吾作、直売所などと協力しながら、環境景観整備、耕作支援、地域活性化活動、都市農村交流活動など地域への幅広い事業をサポートしています。

実施日	活動内容
5月31日(日)	草刈作業 保存会と連谷お助け隊
6月6日(土)	第4回お田植え感謝祭「みんなで灯 そう千枚田」 主催：連谷お助け隊
9月6日(日)	景観、環境整備活動 保存会と連谷お助け隊
11月8日(日)	連合松下地区の生活道路の障 害木の徐伐、枝打作業





「連谷小学校」

地元の連谷小学校は複式学級の児童数11名の小さな学校です。地域の自然や社会を生かした全校活動として「四谷の千枚田」の一部をお借りし、田起こしから脱穀、餅つきまでの作業のすべてを体験しています。平成19年度からは『千枚田で生きる』というテーマで、生活科や総合的な学習として計画する一方、食育とも深く関連付け、地域の方と一緒に頑張って取り組んでいます。

実施日	活動内容
4月30日(木)	田起こし
5月13日(水)	代かき
5月22日(金)	田植え
6月24日(水)	草取り
8月21日(金)	田の草取り
9月2日(水)	案山子立て
10月1日(木)	稲刈り
10月15日(木)	脱穀



【自然に配慮したまちなみ景観・公園づくり】

《景観セミナー》(都市計画課)

愛知県立大学芸術大学美術学部准教授 水津 功<sup>すいづ</sup> 氏<sup>いさお</sup>を迎え、「景観セミナー」を開催しました。東海農政局美の里百選・四谷千枚田絵画コンクール審査委員をはじめ、多くの自治体の景観まちづくり事業に参加された経験をもとに様々な事例を挙げて、景観との関わりについて語られました。みんなが大切にしたい、これからも残したい、みんなで共有したい、そう思える景色を見つけて意識することが大切です。

日 時:平成21年9月29日(火) 午後7時から  
 場 所:市民体育館 第1会議室  
 講 師:愛知県立芸術大学美術学部  
 准教授 水津 功氏  
 参加者:45名



《新町地区まちづくり協議会》

主な平成21年度事業概要

①ひだまりパーク・街路樹「陽光」の管理

陽光桜の手入れを行うとともに新桜通りの清掃を定期的実施し美化に努めました。ひだまりパークの管理においては、七夕飾り・案山子・イルミネーション・門松などを飾り付け、四季の演出を行いました。



## ②まちなか景観向上のための活動

花のまちづくりの実践としてガーデニング講習会を開催し、講習会で作った寄せ植えを東新町駅舎に飾りました。新桜通りでは、フラワーポットを継続して設置しました。新桜通りふえすたのイベントとして「花灯路(はなとうろう)」を開催しました。

食彩園「やどかり」では、ワイルドフラワーの「花迷路」を作り、そば・菜の花の栽培も行いました。

## ③「新桜通りふえすた」の開催

平成22年3月21日(日)、新桜通りを歩行者天国にした「第6回新桜通りふえすた」を開催しました。当日は風の強い日となりましたが、「I らぶ まちづくり」をテーマに、新城高校吹奏楽部の演奏や和太鼓の演舞など様々なパフォーマンスのほか商工会によるテント市やフリーマーケットも開かれるなど大勢の人々で賑わいました。さらに、昔懐かしいチンドン屋も登場し、会場は子ども達の喜びの声で溢れていました。



## ④まちづくり憲章の周知

平成21年7月25日(土)、商工会主催の新桜通り夜店に参加し、まちづくり憲章が書かれた「エコうちわ」を来場者に配り、周知を図りました。

## ⑤協議会活動の輪を広げる

多くの人にまちづくり活動を理解し、参加してもらえるよう、自分たちのまちは自分たちで守るという知恵から生まれた「うだつ」を今も残し、守っている岐阜県美濃市の「う

だつの上がる町並み」を視察しました。また、東新町公民館まつりに参加し、食彩園やどかりで栽培したそば粉を使った「やどかりそば」の試食を行い、地域の方々との交流を深めました。

⑥その他

第19回全国花のまちづくりコンクール 団体部門入選（同推進協議会主催）

◇新町地区まちづくり協議会(平成21年度活動実績)

実施日	活動内容
4月14日(火)	例会 総会について
4月24日(金)	第11回総会
5月19日(火)	例会 21年度事業について
5月24日(日)	作業 新桜通りの花の植え替え・草取り・陽光桜の消毒
6月23日(火)	例会 夜店参加について
6月28日(日)	作業 ひだまりパークに七夕の飾りつけ
7月14日(火)	例会 夜店参加・視察について
7月19日(日)	作業 新桜通りの花の植え替え・芝刈り ひだまりパークの照明設置
7月25日(土)	新桜通り夜店参加 まちづくりエコうちわを無料配布
8月25日(火)	例会 視察について
9月20日(日)	作業 新桜通りの芝生の手入れ・やどかり花の種まき ひだまりパークに案山子の設置
9月27日(日)	視察 うだつの上がる町並み～岐阜県美濃市～
9月29日(火)	例会 景観セミナー参加
10月23日(金)	第19回全国花のまちづくりコンクール 団体部門入選
10月27日(火)	例会 東新町公民館まつり参加について
11月8日(日)	例会(作業) 新桜通りの花の植え替え ひだまりパークにイルミネーションの設置
11月15日(日)	東新町公民館まつり参加 やどかりそばの試食
12月6日(日)	作業 ひだまりパークに門松の設置
12月15日(火)	例会 新桜通りふえすたについて
1月12日(火)	例会 新桜通りふえすたについて
2月9日(火)	ガーデニング講習会について
2月21日(日)	ガーデニング講習会開催
3月2日(火)	例会 新桜通りふえすた・総会について
3月14日(日)	作業 東新町駅にガーデニング講習会の花を20鉢設置 「花灯路(はなとうろう)」設置 「新桜通りふえすた」イベント「花灯路」開催
3月20日(土)	作業 「新桜通りふえすた」準備
3月21日(日)	歩行者天国「第6回新桜通りふえすた」開催

## 2 ふれあい

### ●自然に親しむ

#### 【自然に親しむ心の醸成】

子どもの頃から日常的に自然に親しみ、ふれあう機会をつくることで、自然を大切にする心を醸成します。

#### 《園児がアユの稚魚放流》

平成21年5月19日(火)、庭野地区の豊川左岸で、新城幼稚園の園児が鮎とアマゴの稚魚を放流しました。

園児たちは素足で浅瀬に入ると、バケツの中の魚を川へ放し、魚が元気に泳ぎだす姿に大きな歓声をあげていました。



#### 《親子せせらぎエリア》(生涯学習課)

市最大の特徴である自然環境は、住民の居住空間そのものであり、これを市民共有の財産として、良好な状態で将来に引き継いで行かなくてはなりません。

教育委員会では、子どもの頃から、新城の素晴らしい自然にひたり、ふるさとのよさを体感できるよう、「親子せせらぎエリア」を設けました。

水がきれいで、浅瀬で安全性があり、近くに駐車場やトイレのある、地元のご理解の得られた3箇所です。

開設期間：平成21年8月1日(土)～8月16日(日)  
午前10時～午後4時

開設日数：13日間

利用者数：大人 561人 こども 451人  
合計 1,012人

内 訳：

場 所	新城・牛倉地区 大宮川	鳳来・川合地区 乳岩川	作手・善夫地区 菅沼川
大人	36人	57人	468人
こども	44人	54人	353人
計	80人	111人	821人

#### 新 城・牛倉地区の大宮川

■ 井ノ口橋下流50メートル・仮設トイレあり、駐車場は牛倉公民館

■ 大宮川の河川改修により誕生した親水エリアです



#### 鳳 来・川合地区の乳岩川

■ 中流付近50メートル・駐車場、トイレは入山入口

■ 天竜奥三河国定公園内にあり、水はすきとおり大変きれいです



#### 作 手・善夫地区の菅沼川

■ 善夫橋下流50メートル・駐車場、トイレは「涼風の里」

■ 小さな産直物の販売と軽食を出す豊舞き屋根の「涼風の里」の付近です

